よかネット
YOKANET
No. 95　2009. 7
（株）よかネット

もくじ

NETWORK
高齢者賃貸専用住宅と住宅型有料老人ホームの事例を通して様子見圏を考える …… 2
住まいと暮らしを支える情報センター「住マイむなかた」の挑戦 …… 6
第 17 回よかネットパーティー報告 …… 8
皆様から寄せられた「よかネット」へのご意見、近況などの紹介 …… 10
オチコボレ論
オチコボレの戯言・その３　オチコボレ論と福沢諭吉 …… 11
見・聞・食
気楽におしゃれに野菜づくりが楽しめる街なか貸し菜園～アグリス成城の試み～ …… 14
ホタルの光を見ながら、河川沿いを散策 …… 16
近況
長崎をさるいて来ました …… 18
長崎さるくで遊郭番付をコピーしてもらう …… 19
歩けなかった熊野古道 …… 19
書評
九州・沖縄食文化の十字路 …… 21
お知らせ
椎葉村栂尾神社の神楽を見に行こう …… 22

●地域の「食」や「ネタ」を通じて交流した第１７回よかネットパーティー

①糸島の野菜をふんだんに煮こんだ料理
②地域のお酒を飲みながら進む交流
③会場からのお題で即興「博多にわか」
④一夜干しヒラメも堪能できました
⑤すっかりおなじみになった薫製づくり
⑥最後は恒例の「博多手一本」

写真①	写真②	写真③
写真コメント		写真④
	写真⑥	写真⑤

高齢者はどこを終の住処とするのだろうか－７

～高齢者賃貸専用住宅と住宅型有料老人ホームの事例を通して様子見圏を考える～

山田　龍雄

高齢期にどこに住むのか、どこを居場所とするのかは、高齢期になってからの家庭環境、住まいの状況、本人の健康状況によって左右される問題であるため、本人が切迫した状況にならない限り、なかなか行動に移せないものである。

これまでの我が国の世帯の状況をみると、昭和55年までは３世代世帯が半数を占めていたのであるが、その後の核家族化や少子高齢化の進展によって、平成18年は約２割と急速に構成比、絶対数自体とも減ってきている。つまり、今のところ、３世代同居で子供から面倒をみてもらえそうな親世帯は２割程度ということになる。

今後の同居意向の調査をみてもますます３世代同居の子供から面倒を見てもらえる高齢者は少なくなっていくことと予想される。（図２）

小生の場合を考えても、息子２人が結婚したとしても子供夫婦と同居するのは、お互い気を遣いそうであり、遠慮させていただこうと思っている。将来は、どうも夫婦二人で生活することになりそうであり、理想的にはピンピンコロリで天国に行ければと願っている。

しかし、どちらかが長期の介護状態になるとも限らないし、そうなる可能性の方が高いかも知れない。そういう意味では早い時期に介護付きの有料老人ホームや高齢者専用賃貸住宅なども選択肢に考えておかなければならないように思う。

今後、子供と同居はしないが、自立可能な状態のままであれば最低限の面倒をみてくれる施設、または介護状態となっても最後まで看取ってくれる施設は、ますますニーズは高まりそうだ。

そこで、今回は、「高齢者専用賃貸住宅」と「住宅型有料老人ホーム」のケースを通して、高齢者の終の住処を考えてみたい。

●近くに住む子供から呼び寄せ移住が多い高齢者専用賃貸住宅

〈充実した共用スペース〉

福岡市東区香椎浜に５月１日、高齢者専用賃貸住宅（以下「高専賃」という）－アクアヴィラ（202戸、約50㎡タイプ50戸、約25㎡タイプ152戸）が入居募集を開始した。この住宅は、60歳以上の健康な人であれば、誰でも入居が可

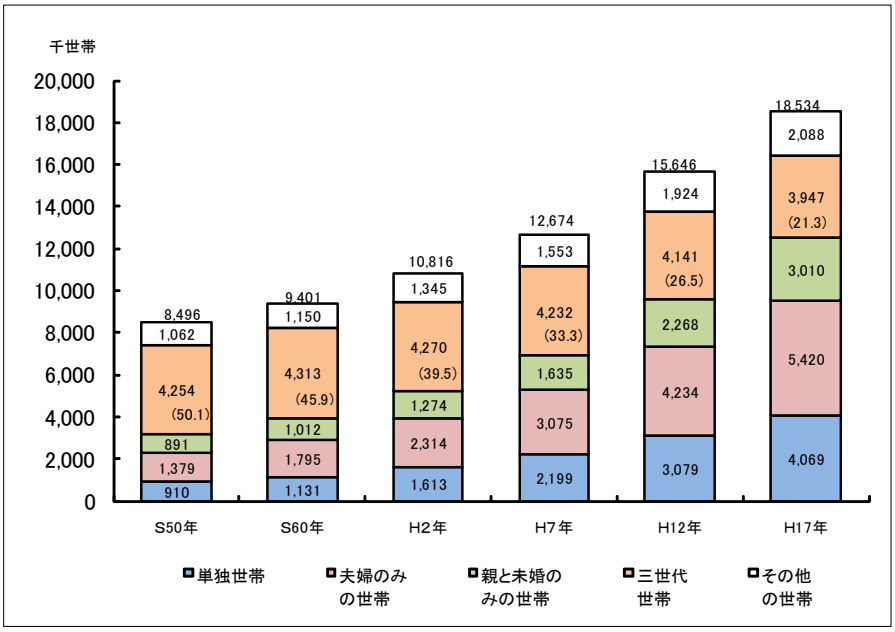
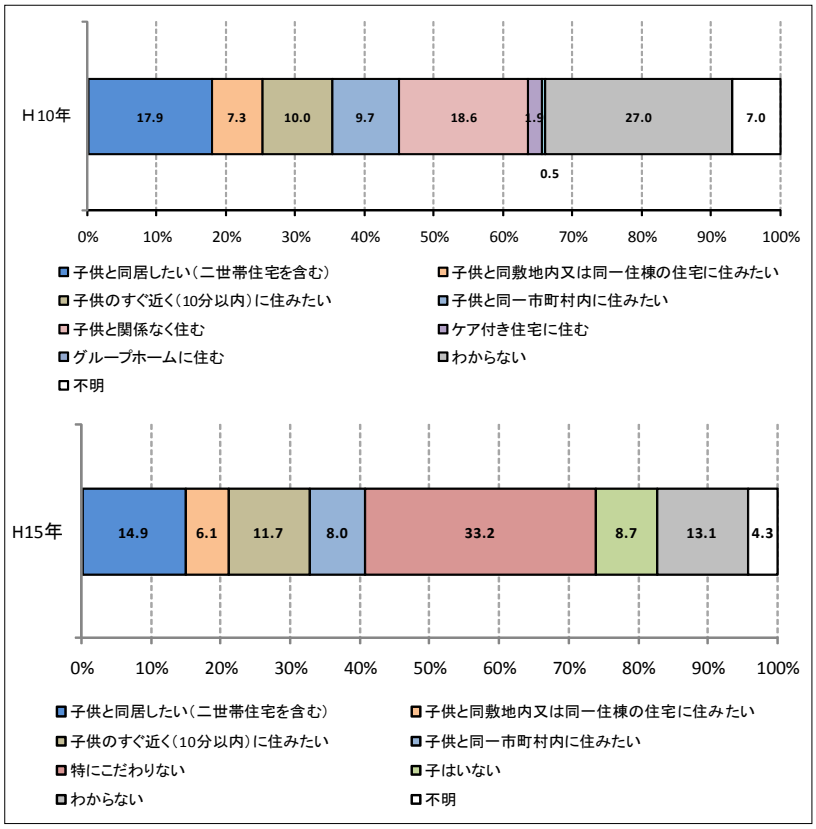


図１　65歳以上の者のいる世帯数及び構成割合

図２　親との同居意向

平成 15 年住宅需要実態調査（全国）による「親との同居意向」をみると約 15％であり、前回（平成 10 年：18%）に比べ３ポイント減少している。
※平成 10 年と平成 15 年との設問項目の一部が異なっている



能な賃貸住宅であるが、１階には気の合う入居者同士が談話できるコミュニティサロン、大浴場、工作や工芸などの趣味や研修などができる多目的の部屋など、共用部が充実している。また、運動指導員による介護予防運動（ヨガ教室、筋トレ・ストレッチ、椅子ストレッチなど）や専門スタッフによる認知機能低下予防（ペーパークラフト、ゲーム、洋画鑑賞など）のプログラムが用意されており、入居者は誰でもこのプログラムを受講し、健康で自立した生活が維持できるシステムとなっている。このプログラムメニューをみると月曜から金曜までは午前 10 ～ 17 時ごろまで(月曜日のみ､午後 7:30 ～ 8:30 １コマ追加、土曜日は午前中２コマ、夜１コマ）４コマとなかなか充実している。入居者は好きなプログラムを受ければ良い。

賃貸料は 25 ㎡タイプが５万円～ 6.1 万円、50 ㎡タイプが 8.7 万円～ 9.7 万円であり、緊急時には住戸内に設置された緊急コールボタンを押せば、警備会社から警備員がすぐに駆けつけてくれるようになっている。しかし、要介護状態になった場合は、在宅介護の取り扱いとなり、別途介護費用を要することとなる。

〈２週間で 202 戸の約２割程度の申込み〉

私は、入居募集開始から２週間ぐらい経って、現地の案内センターを訪問し、視察させていただいた。まず、案内センターに入って驚いたのが、壁に掛けられた入居申込みの赤マークが、入居募集開始後の２週間目にして、すでに２割程度あったとのことである。一般に高齢者の福祉施設などでは、入居が埋まるのに２～３年を要するそうで、２週間目にして２割は、相当速い。

この施設を案内してくれた人に「なぜ、こんなに申込みが早いのですか、　どこから入居している人が多いのでしょうか？」と尋ねると､「反響が大きかったのは、九州内の各県の主な新聞に広告をうったことによるのでしょう。入居者の約７割は福岡市外であり、このうちの半分程度（全体の４割）が福岡県外からの入居で、こんなに県外から入居者があるとは思ってもみなかったですよ。子供さんは、だいたいこの高専賃の周囲の団地に住まわれている」といったことを話していただいた。

香椎浜のショッピングセンターの北側隣地に建つ高専賃、アクアヴィラ

〈介護は在宅介護よるサービス〉

この高専賃は、入居の初期の負担が有料老人ホームほどかからないことから、とりあえず入居しやすい施設である。このため、福岡市内に就職し、住居を構えた子供たちが県外に住んでいる親を近くに呼び寄せているのではないかと思う。私がさらに「認知症になって隣近所に迷惑をかけるようになった場合はどうするのですか」と、やや意地悪な質問をすると「その場合は、親族と話し合い、他の福祉施設に入居してもらうことになるでしょう」とのこと。ここはあくまで住宅であり介護施設でないため、将来的には多少の入れ替わりが出てくると推察される。

アクアヴィラでは、近接地に第２号館建設（約300戸）も予定されており、ここではレストランと介護事業所が併設される予定である。入居者は、ここのレストランで食事ができるようなる。また、介護サービスも併設した介護事業所と契約した入居者は、迅速なサービスを受けられるようになる。

※高齢者専用賃貸住宅とは

高齢者の入居を拒まない「高齢者円滑入居賃貸住宅」のうち、専ら高齢者を賃借人とした賃貸住宅。高齢者円滑入居賃貸住宅とは、賃貸住宅の貸し主が、都道府県知事または各都道府県の指定登録機関に、高齢者の方が安心、円滑に入居できる賃貸住宅を登録する制度であり、登録することで滞納家賃の債務保証を高齢者居住支援センターが実施し、貸し主の負担や不安が軽減される。

アンリ南福岡
左手には大きな木々の緑がある

●最後まで安心して過ごせる住宅型有料老人ホーム～アンリ南福岡

〈医療との連携による安心感〉

この施設は、ＪＲ博多駅から鹿児島本線下りの３駅目（時間距離10分程度）、南福岡駅から５分ぐらい歩くと、駐車場の奥に、木々の緑の中に佇んでいる建物がみえる。ここは2008年10月にオープンした「住宅型有料老人ホーム～アンリ南福岡」である。住宅型有料老人ホームとは、これまでの介護付き有料老人ホーム（特定施設※）が総量規制によって行政から認可が下りないこともあって、現在、主流となっている有料老人ホームである。

いわゆる介護は、在宅介護となり外部介護サービスを受けることとなる。これだけだと先ほどの高専賃と変わらないのではと考えられるが、ここでは併設した居宅介護事業所及び訪問介護事業所からの迅速な対応を受けられる。外部介護サービスであるが、施設内介護と同等のサービス提供が受けられる。ここでは同じ敷地内に特別養護老人ホーム「薔薇の樹苑」があり、デイサービスやショートステイも利用できる。

この施設を運営しているのは、医療法人徳州会グループのひとつである（株）ケアネット徳洲会であり、病院と連携しているのも入居者にとっては安心感がある。通院が必要な入居者には、週のうち５日間シャトルバスを出し、福岡徳洲会病院と愛心会二日市病院への送迎サービスも提供されている。

入居者の園芸クラブで手入れされている屋上庭園

１階にあるトレーニングプール

※特定施設とは

「特定施設入居者生活介護」の認定を受けている高齢者施設であり、介護費用は施設介護が対象となるが、看護士や介護士の人員数に一定の基準が設けられている

〈ターゲットは少し高めの年金支給者〉

この施設では、65 歳以上の自立可能な方から要介護５までの人も入居が可能である。入居費用は、利用権として入居一時金を支払い、月々の管理費と食費を支払うこととなっている。

一時入居金は 1,060 万円（約 33 ㎡）～ 1.730 万円（43.38 ㎡）と部屋の広さ、方角で差を設けている。一時入居金は７年償却で返還対象は１年目で退去すると 70%で、２年目以降に退去すると一時入居金の 70%掛けの金額から月割均等で減額された返還額となっている。

入居後の毎月の入居費用（管理費＋食事）は約 15 万円～ 18 万円であり、介護が必要になったときに介護費用が加算される。

施設を案内していただいた事務所長に「ここの施設はどのような層を対象としているのか」と尋ねると、「ここの施設は、重度の介護の方まで安心したサービスが提供されているので、少し金銭的に余裕のある高齢者が入居されています。学校の先生や会社の役員クラスの人も多くおられます。したがって、マーケットを考えるときも、周辺にこのような層がどの程度おられるかを考えておく必要があるでしょう。」とのことであった。

施設はオープンして半年以上を経過しているが、訪問した５月半ば時点の入居率は 65%（77 室／ 119 室）と好調のようだ。しかし、事務所長さんは「潜在的な需要はかなり見込まれると考えられるが、高齢者の場合、今、住居を構えて生活しているので、なかなか踏ん切りがつかなく、入居されるまでに時間がかかるようだ」と言われた。

入居者の世帯状況をみると夫婦入居は７室、あとの 70 室は単身入居であり、やはり圧倒的に１人住まいとなってからの入居となっている。平均年齢は 78 歳で、上は 90 歳以上の高齢の方も入居しているとのことであるが、入居年齢は 70 歳代前半が主流のようだ。

〈屋上露天風呂付きの充実した共用スペース、33 ㎡以上の個室〉

高専賃の場合と同様に、この施設も共用スペースは充実しており、入居者同士で仲間ができればいろいろな活動ができそうである。１階には歩行プールと、これに隣接してフィットネススタジオがある。ここでは専門のスタッフが、健康のための運動を指導してくれる。また、13 階の最上階には天然温泉の展望風呂があり、これに露天風呂が併設されている。さらに 13 階には和室とアトリエがあり、入居者同士の趣味の部屋として自由に利用できるようになっている。

施設の部屋はすべて 33 ㎡以上となっている。事前にリサーチすると、少々一時入居金が高くなっても広い部屋から入居していくということから、最低ラインを 33 ㎡としたとのこと。36

インストラクターがいて指導してくれるフィットネスルーム

㎡の空き部屋をみせてもらうと、バス、トイレ、ＩＨクッキングがつき、狭さを感じない適当な広さである。

●様子見圏域を考えたまちづくりが大切

今回、高専賃を取材して感じたことは、入居の手軽さもあることから福岡市内に在住する子供からの呼び寄せで近居スタイルを選択している世帯が多いと感じた。また、有料老人ホームでも従前の住宅を処分できず、そのままにして入居している人も多いと聞く。

都市での高専賃や有料老人ホームが増えるということは、同時に地方の高齢者の住まいの空き家化が進むことであり、複雑な思いになる。

10 数年前に NIRA（総合研究開発機構）助成で研究した「高齢者はなぜふるさとを離れたのか（1996 年)」の中で提案したように、一人住まいになっても健康なうちは田舎に居住し、できるだけ月に１～２回は子供たちや親族が様子見に行けるような広域的なまちづくりが理想のように感じる。

そのためには、県庁所在地以外の地方都市で、安定した雇用環境、生活環境、地域のコミュニティ、生活する上でのコストなどトータルとしての住み良さ（曖昧な表現でしか言い表せられないのであるが)、この“住み良さ”の点で大都市に負けない環境づくりが重要であり、地方都市での定住促進策がますます必要であると思う。

（やまだ　たつお）

住まいと暮らしを支える情報センター「住マイむなかた」の挑戦

山田　龍雄

宗像市は、福岡市と北九州市の両政令都市の中間に位置し、両都市のベットタウンとして発展してきたまちである。特に昭和 36 年の国鉄の電化によるスピードアップに伴い、丘陵地が切り開かれ、新日鐵の住宅のほかに、昭和 41 年には赤間駅南側に自由ヶ丘団地の開発がなされ、また、昭和 45 年には日本住宅公団施行（現（独）都市再生機構）によって東郷駅南に日の里団地の開発が進んだ。さらに、昭和 41 年の福岡教育大学や東海大学工学部の開校とともに、学園都市、文教都市としてのブランドも形成された。

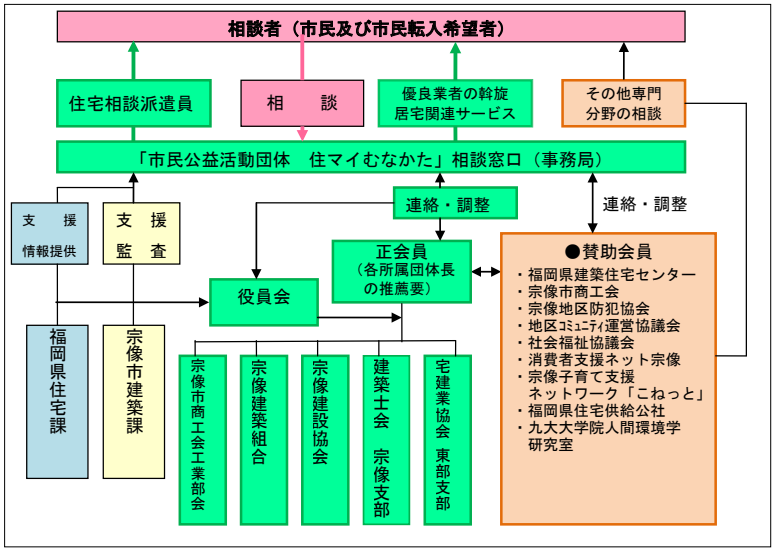
このように昭和 40 ～ 50 年代初頭に開発された団地を多く抱えた宗像市にあっては、団地居住者の高齢化の進行とともに、空き地、空き家が増加してきており、これまで地域で支えてきた暮らしや住環境の維持ができないといったことが懸念されている。

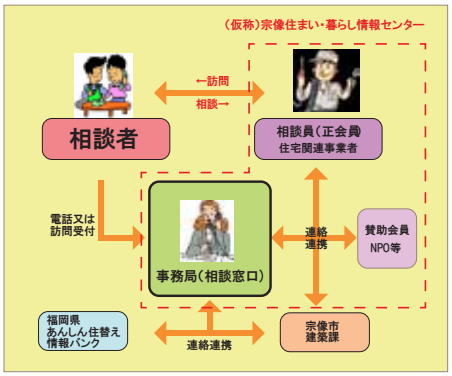
そこで、宗像市では２年前から市民主体、市民と行政との協働のもとで住宅や住生活のサポートを行うような仕組みづくりに取りかかり、平成 20 年１月末に「市民公益活動団体　住まいと暮らしの情報センター（通称：住マイむなかた)」を発足させた。

●市内の住宅・宅地関連業者を中心とした構成

「住マイむなかた」は宗像地域内の建築組合、建設協会、建築士会、宅建業協会、商工会（工業部）の有志を募り、61 名が正会員とし登録している。また、地域コミュニティ運営協議会、社会福祉協議会、ＮＰＯ等の団体が賛助会員として名を連ねている。正会員と賛助会員とは、お互いに連絡・連携しながらサポートしていくことが期待されている。

設立と同時に、これまで市が実施していた住宅相談業務については、「住マイむなかた」が委託を受け、実施している。具体的には事務局





上：住マイむなかたの相談業務イメージ

左：住マイむなかたの組織図

の２名の事務員が９時から 17 時までにきた相談（電話又は訪問）について、質問内容に対応できる正会員に連絡し、相談者へ応えてもらうような体制となっている。

●昨年度は４つの研究委員会を立ち上げ、何をやるのかを議論

「住マイむなかた」は、既存の活動状況や実績があって設立したというのではなく、これからの地域社会の必要性をにらみながら、活動する内容を固め、いずれはコミュニティビジネスとして発展させていくことを視野に入れている。

そこで、昨年度は正会員の主だった人たちで４つの研究委員会（居住関連サービス研究委員会・元気むなかたハウス研究委員会・あんしん賃貸支援研究委員会・あんしん住み替え研究委員会）を立ち上げ、定期的に話し合いを行い、来年度以降の事業計画を検討した。当社は、この研究会のひとつであり、当時、ネライが定まっていなかった居住関連サービス委員会のお手伝いをして欲しいということで、昨年６回の会合に出席し、会議運営のサポートをさせていただいた。

●いろんなアイデアが出された居住関連サービス研究委員会

居住関連サービス研究委員会では、当初、住まい・暮らしの面で市民にどのようなニーズがあるのかを探ることから始まった。そこで、先ず、昨年度に実施した住まいと暮らしに関する市民アンケート（高齢者世帯：115 票、子育て世帯：256 票）の検討から始まり、次に（NPO）宗像子育て支援ネットワーク「こねっと」さんに住まいや暮らしの面で困っていることをお聞きするなど、市民の困っていることを徹底的に勉強した。

それから、委員のみなさんから、それぞれア

企画された事業アイデア

①３ヶ月に１回程度でセミナーを開催する
②市、商工会、賛助会員のイベント時に相談ブースを設置する
③住マイむなかたが受注した場合、不要な家財道具の処分は無料で行う
④既存宅配サービスの充実
⑤放課後・休日等の子どもの遊び、学び支援の充実
⑥簡単メンテナンス動画を作成し、ホームページやＤＶＤで配信・配布する。
⑦耐震診断アドバイザー派遣の実績を活かす
⑧住宅用火災警報器設置事業
⑨賛助会員と協議し、活動や事業を互いに紹介しあえる広報物を作成する
⑩昭和 57 年以降に建設された住宅の耐震診断
⑪高齢者施設、学童保育施設の修繕を実費程度で行い、各施設から広報してもらう
⑫市、賛助会員、商工会のイベント時に住宅の仕事を体験できる講座を開催
⑬福岡県「住みよか事業」の受託

イデアを出していただき、このアイデアを当社の方で少し肉付けをした形で、13の事業アイデアが提案された。（前頁）

●簡単メンテナンスＤＶＤ作成からのスタート

研究委員会では「いろいろなアイデアは出されたが、的を絞って確実に実行可能なものであり、波及効果が高いものをやろうではないか」という意見が出され、事業を一つだけに絞ることとなった。そこで、研究会参加者のみなさんが選んだのが⑥の「簡単メンテナンス動画作成」であった。

今年度４月の研究委員会では、単にメンテナンスだけではなく、屋根や壁の点検項目や衛生器具の清掃の仕方など幅広く紹介してみた方がよいということとなり、現在、各委員さんが動画に取り込むネタを集めている最中である。

９月を目途に、この動画ＤＶＤを作成予定である。したがって、これからは、このＤＶＤを宗像市のＨＰで流すことはもちろんのこと、講演会、住宅フェアなどに使用し、もっと「住マイむなかた」を宗像市民に知っていただき、将来的にはコミュニティビジネスにつながっていくことを期待したい。

（やまだ　たつお）

第17回よかネットパーティー報告

●「食」をネタに交流した

参加者が自慢の一品や話のネタを持ち寄って交流するよかネットパーティも１７回目。今年も80名を超える参加があった。主催者としては、毎年のことなので、当たり前になっているが、初めて参加する人には実に不思議なパーティに映るようだ。今年は、これまで参加したことのない人たちにも積極的に声をかけたので、特にそのことを意識させられた。

まず、驚かれるのが、「何が食べられるかは当日のお楽しみ」ということ。常連さんの中には、毎年恒例の一品を持ち寄られる人もいるが、ほとんどものが当日になってみないとわからない。我々スタッフは、パーティー後の写真で、

今年も新たな縁がうまれました

初めておいしそうな料理をみて、くやしがることも少なくない。初めての人には、どんなものが出るのかわからないというのは、新鮮なのか、驚きなのか、説明するととまどった表情をよくされた。

また、「参加者任せなのに、よく食べものが余ったり、足りなくなったりしませんね」とも言われるが、基本的に交流がメインなので、料理は余ることが多い。しかし、それを参加した方々にお土産として持ち帰っていただいているので、ゴミが少なくて済んでいる。これは、環境にも優しい良くできた仕組みだと思う。

「どんな料理をどれくらい持っていけばいいですか」という質問もよく受けたが、よくよく考えてみると、これまでそういうことまでマネジメントをしてこなかった。料理の量については、交流のネタとしての料理なので、無理のない程度で準備してもらえればというと納得していただけたが、料理の内容となると、本人の思い次第なので、コメントに困った。自慢したいものを持ってきてもらえればいいのだが、初めての人は勝手がわからず、何かヒントが欲しいのかもしれない。常連さんも、パーティーの参加ハガキに、持ち寄りの一品を記入するのは骨が折れるといっていた。参加者を悩ますパーティーというのもあまり類をみないものだと思う。

私が入社した８年前、よかネットパーティー10年史を糸乗とまとめたのだが、パーティー初期は、官公庁やサラリーマンの参加者が多く、必然的にお酒や酒の肴の持ち込みが多かったよ

地域で採れた芋・米・麦を使った焼酎など

椎葉村の菜豆腐

うだ。それが、10 回目ごろになると女性の参加者が増え、ケーキなどのお菓子やデザートが増えた。ご飯系が多いなと感じた時もある。この頃は、地域づくりやまちづくりで開発した商品などが増えてきているように感じる。常連さんの中には、「今回は日本酒が少ないなぁ」と残念がる人もいたが、そうした変化も参加者と一緒になって初めて出来上がるパーティーならではだと思う。

今年は初めての参加者のおかげで、パーティーの特異さや良さを改めて感じることができた。喜んで参加してくれる方々がいるかぎり、今後も末長く続けていきたいパーティーである。

（本田　正明）

●今年は「ご当地焼酎」が多かった

各地でＢ級グルメの熱が高まるなか、よかネットパーティーには「五島のひらめ」や「椎葉村の菜豆腐」、「あさぎり町のベーコン」「宮若市のちょんちょん」など、今年も各地のご当地グルメが集まった。食の持ちネタを広げることが、新たな仕事のタネにつながるかもしれないので、我々所員達は、パーティーに皆さんが持って来られる品々を大変楽しみにしている。

また、各地に仕事で行った際にその土地の美味い物を物色し、これはパーティーに出せないか、と虎視眈々とウケを狙っている。よかネットパーティーは、人とのつながりをつくる場であるとともに、様々な食との出会いの場であり、日頃の食べ歩きの成果を披露する場でもあるのだ。

今年は各地で採れた芋や米や麦を使った焼酎が目立った。去年も出した鹿児島県柳谷集落の「やねだん」をはじめ、福岡県岡垣町の黄金千貫（芋）と孔大寺の山脈で蓄えられた地下 150 mより汲み上げた地下水で造った「岡垣」、長崎県松浦市の紅あずま･紅寿で造った「斗農蔵」、同じく松浦市の二条大麦を使った「つんなもや」（松浦弁で「みんなで一緒にいこう」の意味）、福岡県福津市の川口屋の自家井戸から湧出する神秘の水（中性低張性冷鉱泉）を使った「麦酔」など。

私は、宗像市の社会福祉法人さつき会の上田さんが持ってこられた「自立」という焼酎をいただいた。福岡県内の障がい者の皆さんが育てた芋で造られ、麹米から福岡県産にこだわったとのこと。味はスッキリとして飲みやすかった。

このようなご当地焼酎は、その背景に耕作放棄地の活用、障がい者の方々の自立など、様々な社会的背景があることが多く、その製造過程の話を聞きながら含む一口には、焼酎の香り以上に、何か深い味わいがした。

（原　啓介）

●今年の「ひと味」

今回最も印象深かったのは、椎葉の飯田さんの「菜豆腐」でした。

小包の箱を開けてみると、ななんと、注文した「菜豆腐」以外の商品のほうが多く入っていたのです。これには所員全員驚きでした。

気になる中身はというと、「さしみこんにゃく」「うど・たけのこのさしみ」「さんしょう入りドレッシング」「おから」「丸麦を炊いたもの」「とうふ」「みそ」とどれも手作りの珍しいものばかり。

佐伯が連絡すると、宮崎弁で丁寧に一品ずつ

説明してくだり（半分ぐらいの宮崎弁は理解できなかったらしい…）、「たいしたもんじゃないけど、どうぞ召し上がってください」とのことでした。いやいや、私たちにとってはたいそうなものです、と申し訳なく思いながらも、みんなでおいしく頂きました。

飯田さんのところは、椎葉の山奥にありながらも、全国から注文があるということです。地域でものづくりに取組んでいる方にとっては、都市の人たちとの「縁づくり」の参考になると思うので、一度注文してみるのもいいかと思いました。

そして私も、一度会いに行かなければ、と思っています。（雪丸　久徳）

皆様から寄せられた「よかネット」へのご意見、近況などの紹介（敬称略）

■ 40 年間の勤め人生活にピリオドを打ちました。仕事をやっていた時代では糸乗さんと一緒にやった再開発事業のスタートの時が、今の私の心の糧となっています。“オチコボレ”と自称されていますが、着眼点の確かさと、幅広い知識・交友関係にはず～っと感心しております。（奈良市　竹本　俊平）

■ガン・動脈瘤・高血圧と一手引受けの３年目。自分の身体とのつき合い方も体得し、今年４月からゆっくりと農村民泊の輪に戻ってきました。研究会の仲間の支えが心にしみる今日この頃です。経済効果ばかりではなく、手をつないだメンバーの人の心が大きな生きる力になっています。感謝！！

（宇佐市　佐藤　陽子）

■ひところ黒字の期間だけ地域を利用して撤収する小売業を「焼き畑商業」と言いました。跡には商店街の焼け野原が残りました。今回の米国発世界不況ではほとんどの産業部門が「焼き畑型」になりました。農業を初め全国をまんべんなく覆い尽くすグローバル経済に、従来の地域作りは前途真っ暗です。中谷巌氏の「ざんげの書」。時流に迎合の本かと思いきや、なかなかの力作。編集者と徹底討論による本作りが経済の分野にまで及んだ。経済に疎い人にも地域作りにも指針になりそうです。

（注）本の題名は「資本主義はなぜ自壊したのか」集英社インターナショナル

（筑紫野市　山下　國誥）

■上陽町（現八女市）で築 150 年の民家大改修の計画・施行を進めています（NPO 法人グランドワーク福岡）。すでに 20 年前当時の浮羽町内に 50 戸の空家が確認されましたが手のつけようがありませんでした。（家財道具置き場・たまに帰ってくる・私の代で処分はできない等々）対応事例が出てくるようになってきましたがまだまだこれからです。

（久留米市　河野　泰治）

■地元九州のまちづくりの取組、毎号楽しみにしています。高齢化社会、脱クルマ社会を迎えるに当たってのコンパクトシティ中心市街地再活性に現在興味があります。（興味があるのは商店街の人間だけ？笑）

（伊万里市　牧山　彰）

■高速道路 1,000 円。これは絶対間違っている。環境問題をどう考えているのか、そして公共交通の確保をどう考えているのか、首相をはじめとする関係者に小一時間ほど問い詰めたくなる今日このごろです。

（古賀市　津髙　守）

■ 10 年ほど前、よかネット入社当時の体重、体型に戻そうとダイエット中です。１年で 30 kg 減目標。１月から始めて 4/15 現在 11 kg減です。「なんとかダイエット」ではなく、正攻法。勤務先まで 45 分ウォーキング、朝夕 30 分ずつジョギング。酒はやめました。“婚活”の一環です。（うきは市　小田　好一）

■４月から北九州市監査事務局長に異動しました。公務員の行政施行については市民から厳しい目で見られている昨今。これをキチンと監査し是正していくことを心がけていきたいと思っています。「よかネット」では、いろんな視点のいろんな情報が提供されるので楽

しみにしています。今後とも宜しくお願いします。　（北九州市　丸小野　美次）

■未来が短くなってきました。でも、「もう一度生まれ変わるとしても、私はこれまで生きてきたように生きるような気がしている」といったモンテーニュに共感。ニュータウンの村長さんとして、こつこつと暮らしています。
（春日井市　津端　修一）

■情報にオリジナリティーがあるのが何よりの強みだと思います。いつも「読ませる記事」がいくつか入っていて、市販の雑誌などより面白い。少ないスタッフでこれを続けておられることに敬意を表します。
（横浜市　柳沢　厚）

■総務省地域力創造アドバイザーで担当した茨城県常陸大田市の町づくりが総務省でトップ評価を受け、続投に。また全国のモデルとして全国市町村にDVDが配布されました。
今年度は、農林水産省ブランド化支援事業プロデューサー、丸亀商店街の食の町づくりなどを手がけます。近々、NHK出版で町作りの本を出版予定です。　（調布市　金丸　弘美）

■毎回ご送付ありがとうございます。小城市は今年町づくり会社を立ち上げ中心市街地活性化を推進することとなりました。一度取材をいただき佐賀市に限らず佐賀県内各市町の実態をレポートいただければと希望いたしております。何卒宜しくお願い申し上げます。
（小城市　村岡　安廣）

■最近、「食」に関する記事が多いように感じます。地域の魅力において、やはり「食」は欠かせませんね。五月の連休に喜多方へ行ってきましたがどこのラーメン店も大行列で、その人気には驚きました。
（所沢市　山本　正典）

■京築地域のブランド戦略に取り組んでいます。皆様、ご協力、ご指導を宜しくお願いします。
（久留米市　上野　孝徳）

オチコボレの戯言・その３

オチコボレ論と福沢諭吉

糸乗　貞喜

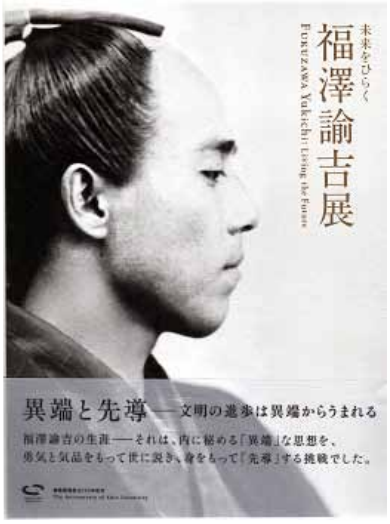
●文明の進歩は異端から始まる

福沢諭吉展を見に行った。「試みに見よ、古来文明の進歩、その初めは皆いわゆる異端妄説に起こらざるものなし（文明論の概略）」という諭吉の思いがあふれていた。私はもともと福沢諭吉ファンで、「福翁自伝」などは笑いながら読んでいた。オチコボレ族の守護神だと思っているのである。

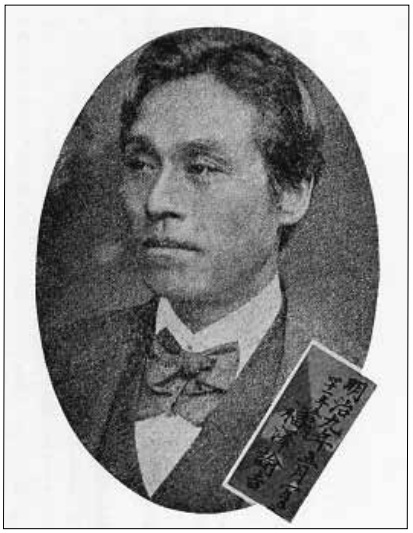
一寸、悪乗りして言葉の解説を試みる。「異端＝その社会や時代において正統と考えられているものと（正）反対の学説・信仰（新明解国語辞典）」。「妄説＝全く根拠のない、でたらめな説（同前）」。

どうです、このオチコボレぶりは。ひょっとして、男女同権論者の諭吉が、“妄”という字を使ってまでして、「文明の進歩は、初めは正統でない、でたらめから始まっているのだ」と強調しているのである。

子供の頃、親に「それはこうした方がいい」と自分の意見をいうと、「おまえみたいなもんが考えんでも、世の中には賢い、偉い人がいっぱいいる。お前は何事もハイハイと聞いて、その通りすればいいんだ」と頭ごなしに叱られた。残念なことに、親の言うことに従わなかった不孝者のオチコボレがここにいる。



展覧会の図録



「文明論之概略」岩波文庫版の口絵。写真の右下に明治九年の文字がある

もう少し悪乗りして諭吉の文章を引用する。「世に多き者は、……互いに雷同して……一処に止て動かざるが如き……今世間に此輩多くして……天下の議論を画し、僅かにこの画線の上に出るものあれば則ちこれを異端妄説と称し、強いて画線の内に引き入れて天下の議論を一直線の如くならしめんとする者あるは、果たして何の心ぞや」

どうです、この激しさは。こんな感覚を持って本を書き、それが明治８年（1875）に木版印刷されているのである。西南の役は明治10年であるから、まさに異端というべきものであろう。

例として上げているのは､10年前までは「300諸侯各一政府を設け、君臣上下の分を明にして（いたのに）、瞬間に瓦解して……今日と為りては世間にこれを怪しむものなし」「故に昔年の異端妄説は今世の通論なり」として、異端妄説と通論の転換の速さを述べている。

もちろん諭吉は､異端が必ず正統になるといっているわけではない。今多数派になっているものは、期限切れを迎えることになっており、次のレギュラーは「異端・妄説」として、現れかけているということを述べているのである。

ここで少し写真の解説をしておく。展覧会の図録の写真は、「異端と先導」という字が読めるように入れた。もうひとつは「文明論之概略」岩波文庫版の口絵をコピーさせてもらった。「明治九年五月」という字が見える。

●“転がり込む”と――オチコボレの視点で見た秋葉原殺傷事件

先月末、学生時代の友人に会った。十数年お互いに音信不通になっていたのだが、去年、突然電話をくれた。声がよくわからず、名前も聞き取りにくかったので、もたもたしていると「死んだのかと思っているのか」と言われ、やっと分かった。分かりにくかった理由は、顎の辺りのガンにかかって、顎の片側を切除するような手術をしていて、口を大きく開けられなくなっていたからである。そして去年、二度会ったのだが、何か気になって仕方がない。つまりお互いに70才を過ぎており、いつ死ぬか分からんと思っているわけだ。

彼の家に泊めてもらって、お互いの葬式をやっているような気分だった。最初の話は奥さんから出た「学生時代2、3日食えなかったとき、糸乗さんとこでやっと食わしてもらった、と言ってました」という話である。思い出話で彼は「もし留守やったらどうしよう」と思いながら５～６キロ歩いて、私がいるのが分かってほっとしたといったが、私は別に覚えているわけではない。“転がり込む”などということは、日常的な事なので、取り立てて思い出すほどのことではないのである。私の就職がないとき、紹介してもらって助かった話が、私の一番の記憶だ。

なぜこんなことを書くかというと、この２～３年、かなりパソコンの検索ができるようになり、「秋葉原の無差別殺傷事件」や、昨年末の「派遣切り問題」などの検索をしながら､「なぜ、この人たちは”転がり込む”ところがないのだろう」と思ってきたからである。

６月８日が秋葉原事件の一年目ということで、ちょっとネットをのぞいてみたら、産経新聞の記事にこんなことが出ていた。

加藤智大被告のトラックにはねられた人を救助している最中、背後から背中を刺されたタクシー運転手、湯浅洋さん（55歳）。傷は肝臓まで達し、約１カ月半の入院生活を送った。昨年10月にタクシー会社に復職したが、 翌11月下旬、異変が起きた。「痛え」。午前２時

ごろ左の脇腹に激痛が走った。我慢走り続けると、今度は頭痛がひどくなり、右手がしびれ始めた。日を追うごとにひどくなる症状。少し運転しては休憩という生活が続き、翌12月は手取りは半減。後遺症の可能性との診断を受け、今年２月から休職している。「後ろから刺され、加藤被告の顔すら見ていない。彼に恨みや怒りはわいてこない」。しかし、１年が過ぎようとする今も、気持ちを整理できずにいる。「挫折」が見え隠れする加藤被告の人生。仕事、友人のいない孤独…。「本当にそんな動機なのか」湯浅さん自身、失敗を積み重ねた人生は、加藤被告に近いかもしれない。親への反発で、高校時代は友達の家に転がり込んで自宅に帰らなかった。大学に合格するも入学せずに上京。有名ホテルの厨（ちゆう）房（ぼう）に入り、フランス料理を学んだ。28歳で開業した飲食店は１年でつぶれた。手元に残ったのは800万円の借金。食べるために運送会社やタクシー会社などを渡り歩いた。「挫折とは一度も思わなかった。結果は他人や環境のせいじゃない。店をつぶしたのだって自分の先見性のなさと技術不足と湯浅さん。「いくらきつくても、自分を信じてやり直せばいいだけ。なぜ加藤被告にはそれができなかったのか。なぜ無関係な人を傷つけたのか。どうしても彼の口から理由が聞きたい」

この記事で気に入ったのは、「苦労を積み重ね」ではなく「失敗を……」と書かれていることと、「挫折とは思わなかった」というところである。

この運転手さんは、それが特別大変なこととは思っていない。オチコボレの私も同じで、よい仲間のような気がする。私たちは、「自我関与」を伴わずには、生きていけなかった。

検索をしていて変に思ったのは、こんな常識的な意見は少なく、「かわいそう」「社会の責任だ」「政治が悪い」といった同情論か、逆に弱者いじめの「オマエはバカだ」「ダメヤロウめ」みたいなことがほとんどだったことである。つまり現代社会は、「社会や政治がレギュラーに取り立てて、名誉と生活を保障してくれる」という空想が蔓延している。その扇動者は政治家とマスコミである。

これもつかの間のことだ。今、アメリカも含めて世界中が、総オチコボレ社会へまっしぐらに走っている。

※自我関与＝行動に際して、「自分の責任」「自分の仕事」「自分の身内」「自分の家」といった意識・態度を伴うこと（広辞苑）

●ワールドカップ岡田監督とベンチャービジネス

ちょっと自慢をしたいと思っている。「サッカーの日本代表通」という意味で、威張っているつもりである（サッカー通ではない）。

12年前、ワールドカップの本戦初出場を予言して、的中させた。1997年のアジア予選で、成績が悪く監督が途中交代することになり、土壇場で変わり、岡田武史監督になった。評論家やマスコミは、岡田監督に「ガッカリ」というような論調になった。そのとき「このチームはかなりやるだろう」と予言した。以下は12年前の「よかネット」の引用である。

〈ワールド・カップ・サッカーとベンチャービジネス〉

若の花が連続優勝した時のインタビューで「仕事ですから」という言葉を２、３度発したのが非常に印象に残っている。

サッカーのワールドカップの監督もビジネス（仕事・本務）だと思う。その監督が変わって岡田監督になったとき、これは面白いのかもしれんと思った。こんなことを書くと「オマエみたいなもんにサッカーが分るか」という人がいると思う。正にその通りである。

この文章が皆様方の眼にふれる頃には終わっているのかもしれないが、この原稿を書いている今はまだ、日本は一試合もしていない。しかし「かなりやれる」のではないかと、私は思っている。その理由は、前任監督の時はベンチャービジネスではなかったが、岡田監督になってベンチャーになったと思うからだ。その岡田監督が、古参の有名選手をメンバーからはずした。「これはいよいよいける」と私は感じた。「彼をはずしたのは失礼だ」な

どという意見もでたが、それは建前ビジネスの世界である。岡田監督は「格落ち」だと云いたいのだろう。少なくとも前任者と比べるとそうだろう。しかし、これはなかなかよい条件である。

岡田監督は、何もむずかしいことを考えずに態度をきめたのかも知れない。しかしベンチャーをやれる程度の人間は、むずかしいことを考えずに行動できるのである。

監督はベンチャーに走った。彼のメンバー達もベンチャーをやるだろう。日本のサッカーは駆け出しであるから、ベンチャーがいい。

勝負はともかく、よい試合になるだろう。

ところで今度は今年のサッカーの話。サッカー通でない岡田監督ファンとしては、ベンチャー精神が弱くなっているのではないかと不安になっている。

一寸、福沢諭吉になぞらえて言うと、ベンチャーは正統になれない異端が行うビジネスである。日本サッカーがベンチャーとして、一泡吹かしてくれないかと期待している。

（いとのり　さだよし）

気楽におしゃれに野菜づくりが楽しめる街なか貸し菜園
～アグリス成城の試み～

山田　龍雄

「ファスト風土化する日本」の著者である三浦展氏は、下町歩きが好きなようで「大人のための東京散歩案内（洋泉社新書）」を７年前に出版している。私は、たまたま、３年前ぐらいにこの本を買って拾い読みすると、東京というまちの懐の深さ、バラエティの豊かさに感心させられるとともに、この本で紹介されている下町を一度は散策してみたくなってくる。

そこで、東京への出張の際には周辺のまちや新しい商業ビルを駆け足ではあるが、見て回るようにしている。今回、５月の中旬に東京に行く機会があり、吉祥寺、自由が丘、成城学園前駅の商業ビルなどを見て回った。今回、事前に、成城学園前駅の商業ビル（成城コルティ）のことをネットで調べていると、すぐ近くに貸し菜園（アグリス成城）があることに気づいた。

アグリス成城は、新宿から小田急線小田原線で約15分のところにある

このような市街地、しかも鉄道の上部になぜ貸し菜園の事業化をしたのかを知りたくなり、取材の予約をして伺った。

●周辺住民の緑化要望に応えた貸し菜園

もともと、このような街なかで貸し菜園ができた背景は交通渋滞緩和という都市問題であった。それは成城学園前駅付近の踏切の慢性的な交通渋滞を解決するため、平成14年より鉄道の地下化が始められ、平成16年度に地下化が完成する。しかし、地下化した上部はコンクリート板のままでは夏の暑さを助長し、景観的に好ましいものではなかったことから、周辺住民から鉄道の運営主体である小田急電鉄へコンクリート面の緑化要望が挙がる。

そこで、小田急電鉄側としても単に緑化するだけでは維持管理費がかかるだけなので、事業化の方向で平成17年から２ヶ年かけて企画を練り、平成19年５月にアグリス成城というネーミングでの貸し菜園の事業化に至った。したがって、オープンして丸２年を経過したことになる。この貸し菜園の事業主体は（株）小田急電鉄であるが、運営は、造園事業を行っているグループ会社の（株）小田急ランドフローラであり、ここではランドフローラの11名のスタッフ（常勤５～６名）が野菜づくりのサポートや貸し菜園の維持管理をしている。

●手ぶらでの菜園作業と充実したサポート体制

当日､快く取材に答えていただいたマネージャーの宮城さんからお話をお聞きしたあと、貸し菜園を案内していただいた。貸し菜園は中央部の道路を挟んで２つに分かれており、約 5,000 ㎡の敷地に 300 区画（一区画約６㎡）が整然と並んでいる。メインの入り口から貸し菜園に至るまでの 50 ｍぐらいのアプローチ通路の両側には花が植えられ、おしゃれでほっとする雰囲気がつくられている。貸し菜園敷地より２～３ｍほど高くなった周辺宅地には戸建て住宅が並んでおり、この貸し菜園が、成城学園前駅周辺の市街地のオアシス的な空間となっているように感じる。

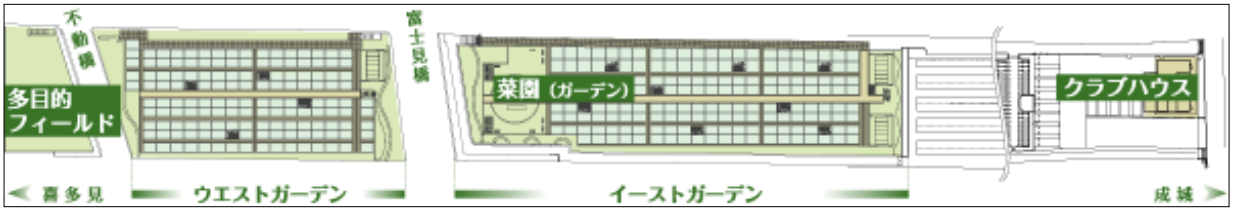
現在、約半分の 150 区画で菜園利用がされているが、お客さんは成城学園前駅から２～３駅ぐらいのところ（約５～６㎞）に住む人が半分で、遠くは都心方面からも来ているとのことである。公共交通が発達し、便利な東京都市圏といっても、このような菜園を求める人の商圏は意外と狭い。貸し菜園利用者の年代は 30 ～ 40 歳代が中心であるが、20 歳～ 80 歳代の利用もあり、年齢層の幅は広い。

この貸し菜園の魅力は、街なかにあるという便利さはもちろんのこと、共同の農作業の道具スペースがあり、自由に利用できる。また、この菜園の入り口付近に設けられたクラブハウスの１階には種苗も揃っており、会員以外の方への販売も行っている。さらに常勤スタッフがいるので、野菜づくりでわからないことはすぐに教えてもらえるなどのサポート体制が整っている。常勤スタッフは、クラブハウス内での種やグッズ販売と貸し菜園のサポートなどを兼務している。宮城さんは「ここは場所もよく、貸し菜園としては安くはないので、当初から他の郊外地の貸し菜園と差別化をしなければいけないと考えていた。そこで、少しおしゃれに、気楽に野菜づくりを楽しむことができるような仕掛け、雰囲気づくりを行うようにした」とのこと。

利用料は、基本的には年間会員と半年間会員の２タイプであるが、いつでも好きなときから始めるられるよう、2009 年度から月額制をスタートさせている。月の利用料は概ね 11,000 ～ 14,500 円（種苗は別途）と郊外地の市民農園に比べれば、確かに割高ではあるが、実際に現場をみると充実したサポート体制や雰囲気の良さに納得できる。

●充実したガーデン会員や一般受講用の多彩な講座

最初にクラブハウスに立ち寄って、なにげな



整然と並んでいる６～７㎡菜園の区画、この下を鉄道が走っている

周辺は戸建て住宅やアパートが建て込んでいる

ガーデン会員が自由に使える道具スペース

貸し菜園の入り口付近に設けられたおしゃれなクラブハウス

菜園内に置かれている苗ポットから好きな野菜苗を自由に購入できる

くカウンターをみると、野菜づくりの講座のパンフレットが 10 種類ほど並べられていた。ここでは貸し菜園での野菜づくりだけではなく、座学の園芸講座をいろいろと行っている。

ガーデン会員用としての「ベジタブルスタディコース」は春夏（４月～８月）11 回、秋冬（９月～１月）の９回コースとなっている。あと一般受講用に初めての野菜づくりなどの講座を設けている。これらの一般受講者向けの講座は、初心者へのサービスをはじめ、ガーデン会員の獲得、貸し菜園事業の安定した収入獲得といった面でも重要な事業プログラムと考えられる。

宮城さんは「小田急ランドフローラは屋上庭園などの都市緑化に力を入れており、ここでの技術やノウハウが、他の事業に役立っている面もあり、また、ＰＲにもなっている。また、このような街なかでの貸し菜園事業は、多くのサポートスタッフが必要なので、理想的には、周辺住民や大学などと連携した仕組みができると面白いですね」と言われていた。

一般受講生向け講座の内容

講座名	定員	回数	料金
ステップアップ野菜づくり	15名	６回	18,900円
初めての野菜づくり	10名	６回	12,600円
ガーデニング基礎講座	10名	６回	18,900円 ※材料費別途
お洒落に楽しむコンテナ野菜づくり	10名	３回	6,300円 ※材料費別途
初めてのハンキングバスケット	10名	６回	18,900円 ※材料費別途

（詳しくは　http://www.agris-seijo.jp/school/index.html）

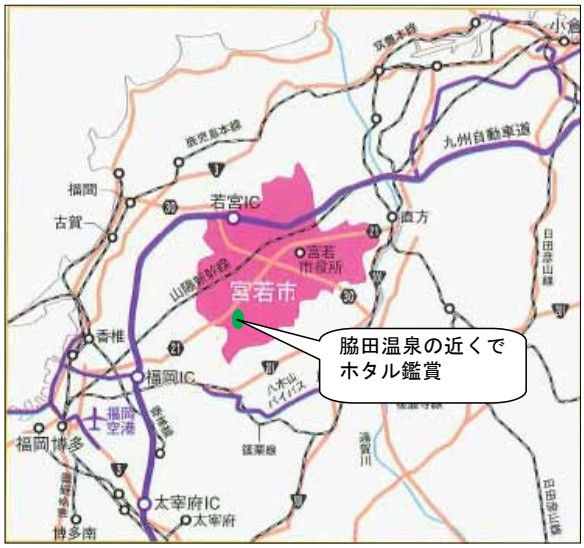
今、多くの人が安全、安心な農産物に関心を寄せている。福岡市内でも、アグリス成城ほど街なかの立地ではなくても、市街地の縁辺部の住宅地（福岡市でいえば、香椎、西新、姪浜、七隈あたり）の未利用地を活用して、このような事業化が考えられないかと思った。このような事業化をイメージしてのマーケティング、事業企画を行ってみても面白いのではないかとも思った。　（やまだ　たつお）

ホタルの光を見ながら、河川沿いを散策
～宮若市第８回ほたる祭～

山田　龍雄

現在、宮若市の観光計画をお手伝いしている。担当の係長から「ほたる祭、是非、見にきてくださいよ。ゴーグルを持っていかないといけませんよ」と言われ、一瞬意味がわからなかった。すぐに『目の中に入ってくるほど、ホタルが乱舞する』ということなのかと気づき、「そんなに出るんですか」と問い返すと、係長は、少々大げさに言いすぎたと思われたであろうか「冗談、冗談」と言われたが、どうもゴーグルを掛けるほどはないにしても、相当、ホタルが出るのであろうということが想像され、是非、見てみようと思った。

今年で８回目を迎える「ほたる祭」は、旧若宮町の役場内に設置されていた観光協会が、９年前に分離独立した記念として、町のＰＲするためのイベントとして始められたものである。



宮若市の位置とほたる祭会場

旧若宮町は、自然環境が豊かであり、町内を流れている河川の多くの場所でホタルが出ていたそうであり、若宮市の観光ガイドをみると７箇所にホタルマークが付いている。

第１回目は100～150人の参加であったのが、年々鑑賞する人が増え、第３回目から西鞍の丘総合運動公園を拠点にシャトルバスを出すようになった。今ではホタルが出る期間中の入り込み客は、毎年４～５千人となっている。取材した観光協会の事務局長さんは「あまり宣伝していないが、口コミで広がっている。これ以上お客さんが増えると、ゴミも増え、地元の人にも迷惑がかかる。じゃらんや九州ウォーカーが取材にきたが、掲載を断ったのです」と言われた。

私が、「ホタルは、養殖等を行っているのですか」と尋ねると、「昔から養殖などは一切行っておらず、自然のままの状態のホタルです。だから、このまま自然環境を守っていくことが大切なんです。ホタルは、豊かな自然環境のシンボルであり、ホタルが多く出るということは、宮若市が自然豊かな環境を保っているということにつながるのです」と力説されていた。

「ほたる祭」当日の６月６日（土曜）の午後５時半ごろ、メイン会場となっている西鞍の丘総合運動公園に到着すると、駐車場はほぼ満杯状態であった。公園のイベント広場周辺には出店が出ており、多くのお客さんは思い思いに出店での食事や公園で催されているイベントを楽しみながら、７時45分に出発するホタル観賞場所までのシャトルバスを待っている。例年は、脇田温泉の旅館のバスを利用していたのであるが、今年はＪＲ九州バスの協力を得て、４台をチャーターしている。私は小腹が空いていたので、出店で豚汁を食べ終わると特に何もすることがないので、シャトルバス１号に乗るため、１時間前には出発予定の場所に並んだ。

私の前には、既に50代半ばのご夫婦と娘さんが並んでおられた。お互い暇なので、なにげなくお話をすると、福岡市の中央区から来られ、３回目とのこと。当初は宮若市内の人の参加がほとんどではないかと思っていたが、相当、市外からも来ているようだ。私が駐車した駐車場の１ブロック（30台程度）のナンバーをみると、ほとんどは筑豊ナンバーではあったが、２割程度は福岡と北九州ナンバーであった。さらに、ご家族は、特に昨年は「ホタルが多く出て、良かった」と言っていた。ますます、乱舞するホタルのイメージは膨らむばかりである。

出発予定より５分ぐらい早く出発したバスの中で、ほたる祭のガイドの方が「ここのホタルはゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメホタルの３種類がいます。種類としてはゲンジボタルが一番多いのですが、上で飛んでいるのがオスで、下の草むらでチカチカと光っているがメスです。ほたる祭に係わっている人たちは、ホタルが過ごしやすいように草刈り、川が汚れないような環境保全に取り組んでいます。この活動の

イベント広場では出店や追い出し猫の着ぐるみも出て賑わっていた

ため、ホタルが生息するような自然環境を守るため、気持ちだけでよいのでバスを降りたら、募金をお願いします」等々の説明を聞きながら、バスに揺られること 10 分ぐらいで脇田温泉近くの生息地に到着。ここから河川沿いの小道を１ｋｍほど歩きながら、ホタルを鑑賞した。

河川沿いの小道には２ｍおきぐらいに竹の灯篭が並べられ、足元を照らしている。暗闇にも慣れ、歩き出してすぐにホタルの光がちらほらと見えてくる。しかし、今年は、寒暖の差が激しい日が続いたこと、また、当日は小雨交じりに肌寒い気候であったことから、例年に比べてホタルは少ないとのことであった。

イメージしていたホタルの乱舞模様は見られなかったが、河川沿いをゆっくりとホタルの光を追い求め、散策するのは心地よい体験であった。　　（やまだ　たつお）

近　　況

熱長崎をさるいて来ました

先日、長崎さるくに行ってきた。ご存じの方も多いと思うが、「長崎さるく」は、平成 18 年に開催された全国初めてのまちあるき博覧会「長崎さるく博」が、博覧会終了後も継続しているもので、52 ものコースの中から参加者が選択したコースをガイドさんに案内してもらいながら歩く仕組みになっている。

所員同士の話の中で、長崎さるくに行くことは決まった。そこで、どのコースにしようかとホームページを開いてみると、ホテルの予約システムのように、カレンダーをクリックすると、その日の各ツアーの開催日時と空き状況が分かるようになっており、大変操作しやすい。そこで「日本回天の舞台・長崎を訪ねて～龍馬、象二郎、弥太郎が駆け抜けたまち～」を選び、名前やメールアドレスなど必要次項を記入した。すると、予定日の３日前に、長崎さるく事務局から、「変更は無いでしょうか、当日お待ちしております」との自動配信メールがきた。さすが、よく作り込まれている。

スタート地点は出島。長崎のまちにはあじさいがよく似合う

当日は、朝10時開始のコースを選択したため、朝７時半博多駅発の電車に乗り、９時 50 分に集合場所である出島に到着。そして、慌ただしく長崎さるくがスタートした。参加者は我々３人を含めた計６人に対し、メインとサブのガイドさん一名ずつ。ガイドさんは、遊郭にまつわる色恋話や、幕末の志士達とフリーメーソンとのつながりの話がお得意の様子で、その話をするときは妙に力の入る人だった。コース上で何を話すかは個人の思いによって様々だそうで、それが“良い加減”である。

コース中の内容は、坂本龍馬をはじめとした幕末の志士達が通った料亭や遊郭、各藩の蔵屋敷跡等を巡るというものであったが、立ち寄った場所の中では何も跡が残っていないところが半分以上であり、建物や料亭、碑といったカタチのあるものをガイドさんが話す物語で上手につないでいる。

来年の大河ドラマは「坂本龍馬」ということで、今年は「長崎さるく幕末編」というテーマでコースが設定されている。最新･注目のトピックに合わせてコースを様々に設定することができる素材の豊富さは流石長崎。長崎さるくを支えるガイドの方々の謝礼はボランティアということで無報酬、交通費のみ支給とのことであり、長崎への思い、愛着がさるくを支えていると実感。

コースが終了したのは 12 時。それからガイドさんに教えてもらった中華料理屋でちゃんぽんやチャーハンに舌鼓を打ち、これまたオススメの肉まんをお土産に購入し、長崎の日帰り旅

通りすがりの地元の人にあいさつしながら、狭い路地裏を歩く

行を満喫した。地元の人でなければ行けないような路地裏を歩いた後、地元オススメの食事をいただく。こういった「さるくに参加したからこそ、こんな場所を見ることができる」という優越感を感じることができるところが「さるく」のウリの一つなんだろう。

（原　啓介）

長崎さるくで遊郭番付をコピーしてもらう

６月のはじめに「長崎さるく」を初体験した。「さるく」についての詳しい内容については前頁の記事に委ねたい。今回の「さるく」の案内をしていただいたガイドさんは、遊郭コース（文人も思案した？～丸山巡遊～）を得意とするらしく、今回のコース（日本回天の舞台・長崎を訪ねて～龍馬、象二郎、弥太郎が駆け抜けた～）にも入っていた丸山町（江戸時代には日本三大遊郭のひとつ）に来ると、目もいきいき、言葉も滑らかになり、当時の遊郭では約 1,400 ～ 1,500 人近くが働いていたこと、社交場・情報交換の場であったこと、当初の遊郭は何故かしら寺町周辺に多かったこと、坂本龍馬の裏話などの話をしていただいた。

この時に、ご自身で収集されているファイルブックの中に納めていた江戸時代（天保２年：1831 年）の遊郭番付（諸国遊所見立直段附）を見せていただいた。これには正に江戸の吉原と長崎の丸山が横綱として、中央部に記されており、当時、長崎丸山町が日本でも有数の社交場であったことが証明されている。また、行司担当の一人として博多の地名も記されているのも面白い。上から２段目（大関～前頭あたり）ま

江戸時代の遊郭番付、下の欄に西の横綱として長崎丸山町の名がある

での地名が読み取れるが、さすがに江戸、大阪、京都が多く、町も大きかったことから中規模の遊郭が点在していたのであろうと思われる。これを見た途端、おもわず欲しくなり「最後に、１枚コピーさせて下さい」と厚かましくもお願いすると、「さるく」終了後、近くのコンビニに行ってコピーさせていただいた。「今度の長崎さるくでは、是非、丸山巡遊コースを回りたいですね。このときにまた、お会いできれば良いですね」と言って、親切なガイドさんとお別れした。

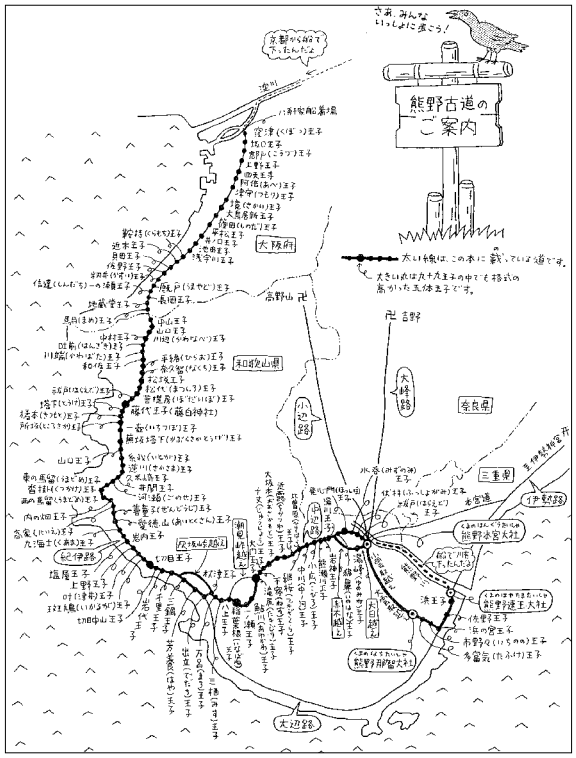
（山田　龍雄）

歩けなかった熊野古道

以前から、沖の島に行ったり、英彦山の修験道の話を聞いたりしていたので、修験道の本場である熊野古道にはぜひ行ってみたいと思っていた。ヨメの実家が京都なので、３月の里帰りを機に行ってみようと、軽い気持ちで宿と切符の手配をしたのが、間違いの始まりだった。

寺社仏閣巡りは好きなのだが、ミーハーなので、熊野古道についてあまり深いことはよく知らなかった。旅の途中で手に入れた「いっしょに歩こう熊野古道（発行：わかやま絵本の会）」によると、平安時代から京都に住む上皇や貴族が修験者の案内で「熊野もうで」をしていたらしい。当時は片道 25 日ほどかかったそうだ。

京都に着いて、さて熊野までの電車やバスの乗り継ぎを調べようとして唖然。京都から熊野速玉神社のある新宮まで特急で４時間半もかかるのだ。和歌山の熊野古道の玄関口にあたる紀



熊野古道のルート（「いっしょに歩こう熊野古道」より）

伊田辺でも約３時間。福岡－京都間の新幹線よりかかる。しかも、和歌山に入ると２時間に１本ぐらいの便数しかない。しかも、よりによって連休の中日に熊野の山奥、熊野本宮大社近くにある湯の峰温泉の宿を予約していたので、行程づくりがめちゃくちゃになってしまった。かといって、黒川温泉の新明館などと同様に日本秘湯を守る会の温泉宿は泊まりたい。熊野古道を歩くのは、多少犠牲にしてもしかたないと思い直していざ出発したのだが、春休みの帰省時期と重なったこともあり、新大阪を出る時点ですでに乗客率が 150%。３時間以上たちっぱなしの人たちが続出し、相当不安なスタートとなった。

熊野古道はいくつかのルートがあり、もっともオーソドックスな中辺路（なかへち）を歩く人は、紀伊田辺駅で降りる。我々は２日目に熊野本宮大社にいくので、ここでは降りない。熊野古道にいく人たちはどんなだろうと、窓から眺めていると、大きなリュックを担ぎ、雨具や防寒具もしっかり準備した登山客らしき人たちが、ゾロゾロと降りていく。そう、熊野古道はハイキング感覚ではなくて登山なのだ。

那智の滝は観光客が一番多かった。滝までの 30 分程の道を熊野古道体験するのが観光客向きのようだ

湯の峰温泉で泊まった「あずまや」。
ここから福岡（糸島）まで９時間の道のり

我々も一応、運動できる格好できたものの、登山や雨具の準備はない。バスの便がほとんどないので、道を間違えて乗り継ぎのバス停に遅れたら、即アウトである。下手をすると携帯が入らず、山の中で迷子になる恐れすらある。自分の旅行プランにだんだん自信をなくし、「今回は下見にして、熊野三山の神社だけバスで巡ろう」と敗北宣言をせざるをえなかった。

それにしても熊野は奥深いところである。紀伊田辺から熊野本宮大社にバスで２時間かかる。最終日は自宅までの移動で９時間もかかってクタクタだった。帰りながら、どうして江戸時代に「蟻の熊野もうで」といわれるほど人気があったのか、理解に苦しんだ。やはり道中の行程を楽しんだのだろうか、それとも温泉が目的だったのだろうか、それとも熊野修験や熊野比丘尼のプレゼンやプロモーションが抜群にうまかったためだろうか。その答えを自分なりに見つけるためにも、「近いうちにリベンジしよう」とヨメにいうと「一人でどうぞ」とあっさりと断られた。　（本田　正明）

『九州・沖縄食文化の十字路』

著者：豊田　謙二

発行：築地書館（株）

著者は「日本焼酎学会」の会長です。日本焼酎学会とは、平成 10 年に著者の豊田先生が福岡県立大学在籍中に焼酎好きの仲間たちと焼酎文化を研究するという目的で結成した会です。この会では、先生が熊本学園大学に移られてからも、田川市内の某小料理屋で定期的に好きな焼酎を飲みながら、焼酎文化を語り合っています。小生も 5 年前から、この会の隅っこに在籍させていただき、ときたま会に参加させていただき、会員が持参してこられる美味しい焼酎を楽しませていただいています。

先生は、もともと社会福祉、公共政策が専門ですが、食や焼酎に対するこだわりから、郷土料理や焼酎文化などを独自に研究され、2005 年に「南の国の焼酎文化」、2006 年に「おいしい郷土料理大辞典（共著）」を出版されています。

この「九州・沖縄食文化の十字路」は、これまで先生がいろいろな媒体で発表してこられた記事を取捨選択し、一冊にまとめられたものです。

この本を読むと、とにかく先生の食や焼酎に対するあくなき探究心に脱帽します。巻末の参考文献をみると、自身の著書も含めて約 50 冊の関連文献が記述されており、これまでの先生の食に対する知識の積み重ねとこだわりの凄さを感じます。

私が、この本を読んで九州・沖縄の食や焼酎に対して間違って認識していたこと、謂れなどで改めて勉強させていただいた事項をご紹介します。

＜焼酎の導入経路は南回りと北回り文化がある＞

私は、焼酎の導入経路は黒潮の南回り文化が主流であると勝手に思い込んでいたのですが、この本では「蒸留酒づくりの道具として、はじめにガンダーラ型の蒸留器が中国に伝わり、中国の伝統的なコシキ（漉し器）を利用し、水冷の原理を取り入れたモンゴル形に変化し、中国型が発した。これが朝鮮半島、日本、東南アジアへと伝播した。（石毛直道著：東ユーラシアの蒸留酒より）」ということが記されており、焼酎の経路には朝鮮半島経由の北回りがあることがわかった。とくに壱岐焼酎の古い蒸留器は韓国の蒸留器「カブト釜」との共通性があり、朝鮮の「安東（あんどん）焼酎」をルーツとしているらしいとのこと。

＜泡盛は、はるか彼方へレニズム文化が源＞

泡盛は、何で「タイ米」を使うのか、昔から不思議に感じていたのですが、数年前、ある人から「日本の米」は水分が多すぎて、泡盛には不適らしいということを聞いて何となく納得していました。この本での次のような記述はさらに泡盛とタイとのつながり、あるいは中東のヘレニズム文化との関係を認識させてくれます。

「泡盛はシャム（現在のタイ）の蒸留酒「ラン・ロン」に由来する。このラン・オン酒はランビキ（蘭引）にかけて蒸留したものである。このランビキはアラビヤ語のアランビック（香水や薬剤抽出した蒸留技術）を語源としている」。

＜銘柄なしの焼酎広告＞

現在、焼酎、醤油、味噌など、あらゆる加工食品には商品名がついているのが、当たり前です。特に焼酎は、芋なら黒霧や白波、麦ならいいちこ、そばなら雲海といったように銘柄、ブランド名を付けて凌ぎを削っています。

しかし、この本では『大正元年（1912 年）の鹿児島実業新聞の囲み広告には、「醤油、焼酎、泡盛」そして「醸造元　中山本店」とあるだけである』と記されています。

当時は、購買圏域も狭かったことから銘柄というより、醸造元のお店を信用して購入していたと考えられます。焼酎に銘柄が付くようになるのは、大正中期か、昭和になってからなのでしょうか。

この本は、九州・沖縄の食や焼酎、泡盛に興味のある方は、一読をお薦めします。食や焼酎などの知識で、なんとなく当たり前と思っていることの由来、思い込んでいることの間違いを気づかせてくれる本でもあります。

（山田　龍雄）

椎葉村栂尾神社の神楽を見に行こう　11 月 22 日～ 23 日

私は去年と一昨年、高千穂神楽に寄せていただきました。もともと全く知らない家だったにもかかわらず、古い親戚の家に行っているような雰囲気がありました。一昨年は何の事情も知らずにいったのですが、飯干さんのお宅に着いたら「さあ、どうぞ、どうぞ」と言われ、ご馳走の席に座り、ビールや焼酎を飲みながら、田舎風なおいしい料理をいただきました。結局当主にご挨拶したのは翌日の朝でした。去年は泊めていただいた飯干さん宅が神楽宿だったので、少し早い目（夕方 5 時ごろ）に行ってよく見ました。33 番の神楽を 25 人のメンバーで舞うのですが、舞う人の番割り表が貼ってあったので見たら、25 人の出演者のうち 21 人が飯干さんでした。椎葉の神楽にも行ってみたいので企画しました。こちらは付き合いも長いので、もう連絡済です。

- 日時　11 月 22 日午後 6 時ごろ～ 23 日朝 10　時ごろ
- 場所　椎葉村栂尾　栂尾神社
- 人数　一応５～６人のつもり
- 宿泊　宿泊はないのです。一晩中舞っているのですから。とはいえ、疲れたら休まねばならんのですが、それはすぐ近くの宮司さんのところにお願いする予定。できたらシュラーフをお持ちください。
- 参加心得　一日氏子、もしくは集落の住民といった気分になること。
- 用意　焼酎二本もしくは２～３千円包む

この写真は去年の高千穂神楽の名手

※オプションは未定です。当日は 3 連休のようです。もう一泊して椎葉を回るとか、阿蘇近辺をドライブとか、提案があったらご連絡ください。

○連絡先　糸乗貞喜　〒 819-1305 福岡県糸島郡志摩町馬場 157-5
TEL092-327-2477　ｹｲﾀｲ 080-5245-2477　ﾒｰﾙ itonori@mue.biglobe.ne.jp　http://otikobore.com

編集後記

よかネット 62 号（2003 年 3 月）以来の紙面リニューアルをしました。カラー化だけでなく、フォントを大きくしたり、デザインを変えたり、編集ソフトを変えたりと、一度に多くの変更を行ったので、編集担当の佐伯には迷惑をかけました。出来た紙面を見て、所員一同、写真の技術をもっと磨かねばといっております。もちろん内容の充実が第一ですが。（ほ）

よかネット迷惑かけられました。というのはウソです。以前のソフトも使いこなせてなかったので、てんやわんやすることには、変わりありませんでした。（さ）

よかネット　No. 95　2009. 7
（編集・発行）
㈱よかネット
〒 810-0802 福岡市博多区中洲中島町３番８号
福岡パールビル８階
TEL 092-283-2121　FAX 092-283-2128
http://www.yokanet.com
mail:info@yokanet.com
（ネットワーク会社）
㈱地域計画建築研究所
本社　京都事務所　TEL 075-221-5132
大阪事務所　TEL 06-6942-5732
東京事務所　TEL 042-501-2531
名古屋事務所　TEL 052-202-1411
㈱地域計画・名古屋